しまねの土地改良だより
MIDORINETTO SHIMANE
2019年（令和元年）
11月1日発行（Vol.104）
水土里ネット島根会報

第42回全国土地改良大会（岐阜大会）

清流で未来をうるおす土地改良　～水土里の恵みを新たな世代へ～

第42回全国土地改良大会岐阜大会が10月16日、岐阜市の「岐阜メモリアルセンター で愛ドーム」で開催され、大会テーマ『清流で未来をうるおす土地改良 ～水土里の恵みを新たな世代へ～』のもと全国の土地改良関係者約4,000名が参集しました（本県から40名が参加）。主催は全国土地改良事業団体連合会（会長・二階俊博和歌山県土連会長、自由民主党幹事長）・岐阜県土地改良事業団体連合会。

式典では主催者を代表して二階会長が「岐阜は日本の縮図といえる変化に富んだ自然があり、多彩な農業を展開している。関係者のお力をいただきながら今後も土地改良の重要性を認識して事業に取り組んで行く」と挨拶を述べられました。その後、古田肇岐阜県知事と柴橋正直岐阜市長の歓迎挨拶、伊東良孝農林水産副大臣、野田聖子衆議院議員（岐阜県選出国会議員代表）、進藤金日子全土連会議顧問（総務大臣政務官兼内閣府大臣政務官）、宮崎雅夫全土連会長会議顧問（参議院議員）が来賓挨拶をされました。

陶山副理事長（農村振興局長表彰）

引き続き個人の長年に渡る土地改良事業への功績を称える土地改良事業功績者表彰が行われ、本県からは雲南市土地改良区副理事長の陶山直利様が農林水産省農村振興局長表彰を、安来市土地改良区の前理事長石倉刻夷様が全国土地改良事業団体連合会長表彰を受賞されました。

石倉刻夷前理事長（全土連会長表彰）

その後、奥田透農林水産省農村振興局次長から「未来を潤す土地改良」と題して基調講演、優良地区事例紹介が行われました。

翌17日は世界かんがい施設遺産の曽代用水、日本初のロックフィルダムである小渕ダムを視察し大会の行程を終えました。来年は10月14日に群馬県で開催される予定です。

■ 第42回全国土地改良大会（岐阜大会） 1
■ 第25回全国棚田（千枚田）サミット 2
■ 令和元年度　農業農村整備事業等に関する意見交換会 3
■ 「うしおの沢池」保全活動 4
■ 11月の主な予定 4

第25回全国棚田（千枚田）サミット

棚田の魅力を再発見！　～美しいふるさとを未来へ～

開会式の様子

第25回全国棚田（千枚田）サミットが10月13日、山口県長門市の「ルネッサ長門」をメイン会場に開催され、全国の棚田関係者約800名が参集し、棚田やその地域で抱えている問題や解決策について事例発表や基調講演が行われ、今回島根県からは棚田組織の方や関係者を含め22名が参加しました。

はじめに地元油谷こどもミュージカル（団員29名）が棚田の尊さをミュージカルで表現し参加者を歓迎しました。続いて全国棚田（千枚田）連絡協議会の中村義明会長（長野県小谷村長・前回開催地）から主催者挨拶、長門市の大西倉雄市長から開催地挨拶がありました。その後山口県副知事挨拶、江藤拓農林水産大臣からのメッセージを牧元幸司農村振興局長が代読され、「全国の棚田関係者においては棚田地域の保全活動を担う代表者として是非棚田地域振興法を活用して、更なる幅広い活動を展開することを期待している」と述べられました。

基調講演では、明治大学の小田切徳美教授が「関係人口と農山村再生～新しい地方創生へ～」と題して新しい農山村像の実現へ向けての今後の在り方について講演されました。このうち、農山村で形成され始めた再生の方向として、田園回帰と関係人口について説明され、都市住民と共有化できる農山村（多自然型低密度居住地域）の新しい役割・価値を積極的に発信し、都市農村共生社会「都市なくして農村の安定なし。農村なくして都市の安心なし。」の実現を全国民が共有化出来るようムーブメントを起こすことが必要だと語られました。

東後畑棚田を視察

午後は第１分科会「棚田を守る多様な担い手」、第２分科会「棚田を核とした地域振興」、第３分科会「地域の誇り棚田の再生」に分かれ、それぞれ棚田を守る地域の熱い思いが語られて活発な意見交換会となった。

島根県内にも多くの棚田がありそれぞれの地域で工夫をしながら棚田地域の活性化に向けた取り組みをしておられます。こうした取り組みを各方面から支援していくことが今後重要となり、県土連としても今後も支援を継続していきます。下記ホームページでは県内の棚田組織の情報をご覧いただけます。

≪しまね棚田元気ネット　ホームページ
http://shimane-tanada.net/≫

令和元年度　農業農村整備事業等に関する意見交換会開催

意見交換会の様子

10月７日、松江テルサにて、農業農村整備事業等に関する意見交換会が開催され、農林水産省、中国四国農政局、県農村整備課、市町村担当課及び土地改良区役職員含め60名が出席されました。

県農林水産部鈴木大造部長、農林水産省農村振興局農地資源課中村昌孝調査官の挨拶の後、本省より、農業農村整備事業関係の概算要求の概要、土地改良区と多面的機能支払活動組織の連携強化、今後の農業農村整備の展開、土地改良事業を契機とした農村地域の振興事例について説明がありました。

特に「今後の農業農村整備の展開」では、

①人口減少下で持続的に発展する農業の振興
　→スマート農業技術を活用した農業の競争力強化、地域振興と連携した６次産業化の推進に資する基盤整備など
②多様な主体が住み続けられる農村の振興
　→再生可能エネルギーの利用や特定農産物を活かした労働集約農業の展開、安来市の事例を紹介して「コンパクト＋ネットワーク」に対応した基盤整備の検討や、定住条件の整備（農地整備に伴う非農用地の創設）など
③農業・農村インフラの持続性・強靭性の強化
　→農業水利施設の強靭化、ため池の適切な管理及び保全、農業水利ストックの統廃合、新技術を活用したインフラ管理の高度化、情報化施策の推進ほか

これを受け、市町長、土地改良区理事長など16名から、地域が必要とする予算の確保を中心に次のように発言があり、活発な意見交換となりました。

・新規地区採択の為に当初予算の確保
・ため池廃止に際しての要件緩和及び事業継続
・国土強靭化対策について３ヵ年緊急対策以降も継続して予算措置を
・地域の自主組織が地域農業の担い手にもなれるよう一体的な農業振興施策を
・中山間地域は条件不利地、草刈りロボット等の開発を
・再整備の必要性（担い手への集約の為）
・干拓地における排水不良について根本的な対策を　　等々

尚、この意見交換会にはオブザーバーとして室本前農村振興局長にも出席して頂き、それぞれの発言に対し適切なアドバイスを頂きました。

うしおの沢池農業用水・水源林保全活動 ～雲南市大東町山王寺～

主催：水土里ネット島根、沢池整備委員会

保全活動に参加された皆さん

10月10日、雲南市大東町山王寺にある「うしおの沢池（堤高9.2m　堤長58m　貯水量78,000m³）」において、農業用水・水源林保全活動が行われました。

地元関係者・農村災害ボランティア・関係団体より総勢約60名が参加し、ため池の法面及び水源林周辺の草刈を行いました。２時間の程度の作業でしたが、参加者の精力的な活動により、堤体外周ほかの雑草がきれいに取り除かれ、有意義な活動となりました。

現在、農作物の生産に欠くことができない農業用水について、用水の源である山林が、間伐遅れ、手入れ不足等により、水源林としての機能が著しく低下してきており、安定した農業用水を確保することが困難な状況になってきている中、今後も県内のため池周辺の水源林保全活動を実施し、農業用水の安定供給のための水源林の重要性について理解が深められるよう努めてまいります。

11月の主な予定

	行　事　等	開催地
11月6日（水）	農林水産省との意見交換会	東京都
11月7日（木）	本会第２回役員会	東京都
11月7（木）～8日（金）	令和元年度土地改良施設の整備補修事例検討会	愛媛県
11月11日（月）	農業農村整備の集い	東京都
11月14日（木）	神西湖堤防（神西地区ため池等整備事業実施地区）保全活動	出雲市
11月19日（火）	令和元年度中国四国土地改良事業団体連合会事務部会	松江市

水土里ネット島根　（島根県土地改良事業団体連合会）
〒690-0876　島根県松江市黒田町432-1　島根県土地改良会館　TEL 0852-32-4141
ホームページhttp://www.shimanedoren.or.jp/　メールsmndoren@shimanedoren.or.jp